

「教育実習体験レポート」

[私立中学校・高等学校 理科]

私は、教育実習を経て多くのことを学びました。まず初めに、教師という仕事はやはり自分の仕事に誇りを持っている、または生徒のことを本気で想っている人にしかできない仕事であるということを感じました。私は実習で、授業と担当クラスの HR しか行っていませんでした。実習で教師の仕事に関して学ぶ機会があった時、私は教師の仕事量の多さに驚愕しました。教師としての授業準備、会議、生徒指導はもちろんのこと、委員会という括りに配属され、学校全体の業務を分担して行うこと全てが教師の仕事と知って、正直な話割に合わないなとも思いました。そうした中で、実際に実習担当の教師の方も言っていたのですが、生徒が大好きでないこの仕事は続かないという思いを感じました。

次に学んだと感じることは、授業の仕方です。私は某予備校で2年間アルバイトを行い、現在も教育系のアルバイトをしています。人に教えるということはもともと苦手なことではなかったし、発表することもアルバイト経験や大学の発表の経験からあまり苦手意識はありませんでした。しかしながら実際、30~40人の前で授業をすることになった時、緊張で胸がいっぱいになったのです。これは上手く話せるか、説明できるかというよりかは、生徒の貴重な授業の一回を、失敗するわけには行けないと想ったからです。正直、初めの授業は失敗しました。授業時間をオーバーしてしまったり、語彙や立ち位置もあやふやで、本当にわかりづらい授業であったと自分でも感じます。回数を重ねるごとに、一番成長したのではないかと自分的に感じるのが、日本語の使い方です。教育実習で、日本語の使い方を学ぶというのは少々おかしなことかもしれませんが、実際に学習指導案を書いて指導教員の方に提出した際、一番言われた言葉が「日本語がおかしい」というものです。正直、助詞の細かな使い分けであったり、書き言葉が少し話し言葉になっているくらいで、このくらい何がいけないのかと感じたこともあります。しかし、実際に授業練習や授業をしてみてわかったことなのですが、しっかりと誰にでも伝わるような学習指導案を書くことで、自分の中で説明する内容を再確認でき、結果的にわかりやすい授業へとつながったのです。

私の指導教員は優しい方であったので、担当している授業を全て実習生に任せるというわけではなく、英数コースの文系理系だけを任せてくれました。授業見学に関しても、授業のやり方自体は変わらないから、一度見に来たらそれで良いという考えを持った方でした。そのような指導教員についていたため、空き時間なるものが人より多く存在しました。もちろん他の先生の授業見学に行ったり、他の教育実習生の授業を見学に行ったりもしましたが、それでも空いている時間は少なからず存在したので、私は人よりも圧倒的に多く授業練習を行いました。個人的に私は、生徒が帰った時間帯の静かな教室で授業練習することが好きでした。あまり大きな声では言えませんが、高校時代にひっそり使っていた、今はあまり使われていない教室で練習すると、教室の広さも相まって程よい緊張感を得られました。授業

練習をすることで私の教え方は格段に良くなったと自分でも感じます。例えば、授業練習をする中で一番多かったのが、実際に声に出して説明しようとする時、自分が思っているより言葉がまとまっていないということです。私の学校の授業時間は45分と比較的短めであったため、授業中は簡潔に伝えるようにしなければいけません。そのような授業を目指す上で、授業練習はとても役に立ちました。また時間配分に関しても、同様の理由で授業練習の恩恵を受けることができました。このように、学習指導案の訂正の繰り返し、数多くの授業練習のおかげで、最後の授業は最初の授業よりも格段に良くなったと指導教員からも言われ、また自分でも感じました。

教育実習で一番きつかったことは、正直に言うと朝起きることです。いつも大学で研究室に行っている時は早くても7時に起きる程度ですが、教育実習中は2週間ずっと6時起きでした。それに加えて、高校では気の抜ける空間があまりなく、家に帰っても実習のことを考えなくてはならず、心が休まったのは寝る直前だけとかでした。そう言う意味でも、このような生活をずっと続けている教師の方々には尊敬の念しかありません。

教育実習を終えて、大変なこともたくさんありましたが、得られたものがとても大きかったと思います。大学院入試と教育実習と、本当に気の抜けない時期が続いていましたが、頑張った経験が自分の中で身についたことが最大の強みだと感じます。理系で教職をとることは大変なことであるし、決して安易にオススメはしませんが、本当に教職のおかげで、この4年間私の価値観は広がっていったと思います。